

# JICA 現地視察 ブルキナ・ファソの旅

江 渡 充 芳

## 1 はじめに

この旅行は JICA (海外青年協力隊) 隊員の家族に対して「協力隊を育てる会」によって企画された現地視察の旅である。

目的は、家族に対して隊員の生活環境や任務を確認してもらい、隊員や当該国に対する認識を深めると共に、隊員に対しては家族に会わせる機会を作ることにある。

筆者の長女 (江渡やよい) はブルキナ・ファソに派遣されており、08年3月末で2年の任期を終える。

今回、ブルキナ・ファソ行きのコースは参加者が少なく、中止も心配された。その後、隣国ニジェール行きのコースに合流して、ニアメで一行と別れ、添乗員なしでブルキナ・ファソの首都ワガドゥグに向かうコースに変更された。

参加者は星佳代子さんの母、郁子さん、堀内和香子さんの母、知恵子さん、江渡やよいの両親 (充芳・保子) の4名であった。

ここではその旅行を主にしながら、ブルキナ・ファソのいろいろな情勢について述べる。

## 2 ブルキナ・ファソの概略

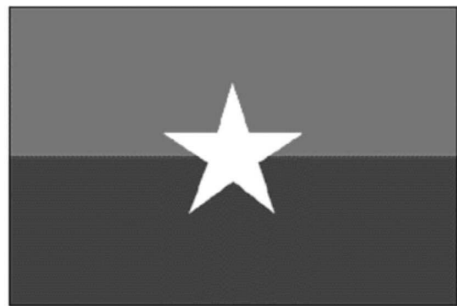
ブルキナ・ファソはアフリカの西部 (フランスとほぼ同経度、赤道よりやや北) に位置する農業国であるが、一般にあまり良く知られていないと思われるので、外務省のホームページ<sup>1)</sup>、日本ブルキナファソ友好協会<sup>2)</sup>、ブルキナファソ大使館<sup>3)</sup> のホームページ等を参考にしながら

ら、その概要を紹介する。

### ◎国名

ブルキナ・ファソ (BURKINA FASO)  
(日本語表記はブルキナ・ファソ、ブルキナファソ、ブルキナ ファソ)

BURKINA は尊厳を、FASO は先祖の地を表す。



ブルキナ・ファソの国旗

### ◎位置

ブルキナ・ファソは、西アフリカのサハラ砂漠の南に位置し、マリ、ニジェール、コートジボアール、ガーナ、トーゴ、ベニンの6ヶ国に囲まれた内陸国。

### ◎気候

熱帯に属し、11月から2月までの乾期、3月から10月までの雨期に分かれ、12月から2月には、サハラ砂漠から乾燥した風「ハルマタン」が吹く。旅行やハンティングに最適なシーズンは11月から2月である。

### ◎一般事情

1. 面積 274,200 平方キロメートル (日本の約70%)

2. 人口 1,360万人 (2006年)
3. 首都 ワガドゥグ (Ouagadougou)
4. 民族 モシ族, グルマンチェ族, ヤルセ族, グルーシ族, ボボ族等
5. 言語 フランス語(公用語), モシ語, ディウラ語, グルマンチェ語
6. 宗教 伝統的宗教57%, イスラム教31%, キリスト教12%

### ◎歴史

11世紀頃から、イスラム教国家モシ王国が栄えた。1897年、フランスの保護領(植民地)となり、1960年8月5日フランス共同体内の共和国として独立した。初代大統領はMauricio Yameogoが就任。1983年サンカラ大尉によるクーデターが勃発、軍事政権の道を歩む。1984年8月4日、国名を「UPPER VOLTA」から「BURKINA FASO」に改称。

- 1987年10月 軍事クーデター、コンパオレ大尉政権
- 1990年10月 マルクス・レーニン主義放棄
- 1991年6月 新憲法国民投票実施、採択
- 1991年12月 大統領直接選挙によりコンパオレ選出
- 1998年11月 大統領選挙(コンパオレ再選)
- 2005年11月 大統領選挙(コンパオレ再選)
- 2007年5月 国民議会選挙実施、6月内閣改造

### ◎政治体制・内政

1. 政体 共和制
2. 元首 ブレーズ・コンパオレ
3. 議会 国民議会(111議席), 上院(161議席)
4. 政府 (2007年6月内閣)
  - (1) 首相 テルティウス・ゾンゴ
  - (2) 外相 ディジブリリュ・イペネ・バソル
5. 内政

1987年10月15日、コンパオレ大尉(当時法相)は、サンカラ大統領(当時)が独裁的且つ行き過ぎた社会主義路線をとっているとして同

政権をクーデターにより打倒、人民戦線を設置し、人民戦線議長(国家元首)に就任。

1990年10月従来のマルクス・レーニン主義を放棄。1991年6月新憲法を採択。同年12月大統領選でコンパオレ大統領選出。

1992年5月複数政党制に基づく国民議会選挙を実施。与党が7割を超える議席を確保し、政権の安定性を確立。

2002年の国民議会選挙でも単独過半数を獲得し、概ね安定的な政権運営が継続。2005年11月の大統領選挙でも圧倒的な得票率で再選。

### ◎外交

非同盟路線の堅持、自由、独立、主権のために闘うあらゆる民族、国民、国家との連帯ならびに社会経済体制を異にするあらゆる国家との平和共存を掲げ、自国経済発展の鍵となる旧宗主国のフランスを始め諸ドナーとの良好な関係の維持・発展を引き続き推進。

トーゴの民主化支援やニジェールのトアレグ問題解決支援に見られるように地域の安定にも尽力。2004年にはAU特別首脳会議、仏語圏諸国首脳会議を開催する等多角的外交イニシアティブを発揮。1994年2月台湾と外交関係を回復。極めて親日的である。

### ◎経済

1. 産業: 農業(75%), サービス業(13%), 工業(10%), 鉱業(2%)。主産業は農業で、ミレット・砂糖キビ・トウモロコシなどを産するが生産性が低い。畜産では、家禽の肉・やぎ・羊・牛など。漁業は河川漁獲のため年間約7,000トン。工業では、紡績工場・オイル精油所・砂糖精製所・醸造所・たばこ工場などがある。
2. GNI 63億米ドル(2006年世銀)
3. 一人当たりGNI 460米ドル(2006年世銀)
4. 経済成長率 5.6%(2006年世銀)
5. 物価上昇率 2.2%(2006年世銀)
6. 失業率 N/A
7. 総貿易額(2006年)

- (1) 輸出 610.1 百万ドル
- (2) 輸入 1,187.6 百万ドル
- 8. 主要貿易品目 (2006 年)
  - (1) 輸出 綿花, 動物製品, 金
  - (2) 輸入 資本財, 石油製品, 食料品
- 9. 貿易相手国 (2006 年)
 

主な輸出先は, フランス, 中国, 台湾などである。輸出品目は, 金・綿花・ナッツ・バター・家禽の肉・グリーンビーンズ・マンゴー・ピーナッツ・ごま・獣の皮・皮革など。輸入品目は, 食品・オイル・ガソリン・消費財などである。
- 10. 資源
 

マンガン, 金, 石灰石, ボーキサイト, 銅, ウランなど地下資源があるが, 開発は進んでいない。
- 11. 通貨 CFA フラン
- 12. 為替レート 655.957CFA フラン=1 ユーロ (固定レート)
- 13. 経済概況

GDP の 35%, 労働人口の多数を農業が占めている。1980 年代半ばまでは, 比較的良好な経済パフォーマンスを見せていた。1984 年のサンカラ政権成立後, 社会主義経済体制下で, 公共部門の拡大, 公共支出・投資の拡大などが実施された。1987 年の軍事クーデター以降, 世銀・IMF 等からの支援も開始され, 1991 年に最初の構造調整計画が開始。

以降, 政府は財政不均衡や国際収支の是正, 民間部門の強化等各種政策を実施。1994 年の CFA フランの切り下げ後もその衝撃を吸収するのに成功。西アフリカ諸国の中で比較的良好なパフォーマンスを見せている。

2000 年にはサブサハラで 2 番目に PRSP (貧困削減戦略文書) を策定。ブルキナファソによる経済改革, 民主化努力は, 世銀, IMF 等を含む諸パートナーからも高く評価されている。

- 14. 対外債務 70 百万ドル (2006 年)

#### ◎交通

鉄道は, 首都ワガドゥグからアビジャン(コートジボアール) まで, 週二便運行している。全長 11,145 km。空の便は, エアブルキナが国内主要都市をカバーしている。

#### ◎国立公園

W, Po, Arli, Deux Bales の国立公園(4ヶ所)と Singou, Nazinga, Bontioli の特別保護区(3ヶ所)がある。

#### ◎経済協力

- 1. 我が国の援助実績

- (1) 有償資金協力

2005 年度まで, EN (交換公文) ベース 0

- (2) 無償資金協力

2005 年度まで, EN ベース 258.29 億円

- (3) 技術協力実績

2005 年度まで, JICA ベース 53.92 億円

- 2. 主要援助国 (2004 年)

- (1) 仏 (2) オランダ (3) 独
- (4) デンマーク (5) ベルギー

#### ◎二国間関係

従来より友好関係を維持

青年海外協力隊派遣取極締結

(1998 年 10 月 6 日)

### 3 ブルキナ・ファソの地図



ブルキナ・ファソの位置 文献<sup>4)</sup>に加工



ブルキナ・ファソの地図

文献<sup>5)</sup>の地図(カタカナ部分)に国名, 主な訪問地をアルファベットで追加記入。

注) Fada N'Gourma は日本語ではファダ・ングルマまたはファダヌグルマと表記される。

#### 4 ブルキナ・ファソの旅

協力隊を育てる会での企画では, 11月29日, 19時に関西空港に集合し, 23:15の便で出発する予定で, 我々は八戸からJRで出発した。

##### ◎ 11/29 出発日 JRで関西空港へ

8:00 八戸発→東京→新大阪→関西空港  
(17時頃着)

19:00~21:00 事前研修会, 23:15 出発の予定のため関西空港で食事, 買い物等を楽しむ。

18:30 構内放送あり。私ともう一人が呼び出しを受ける。すぐ2階受付に来るように。

まだ時間があるはずなので, 私だけ様子を見に行き来ようかとも思ったが, 荷物をロッカーから出して妻と二人で受付を探した。

途中で「江渡さんですか」と声を掛けて下さったのが添乗員の紙田さんであった。

「事情は後で説明します。すぐ次の列車で中部国際空港に向かいます。皆さんお待ちです。」

実は関西空港発エミレーツ航空のドバイ行きは8時間遅れることが判り, 急遽中部国際空港発エミレーツ航空のドバイ行きに変更したとのことであった。事前研修会のための時間は関西空港→新大阪→名古屋→中部国際空港のプレ・オプション・ツアーに変わったのであった。

従って事前研修なしに大急ぎで

22:45 中部国際空港発 ドバイ行き  
所要時間 12:10

に乗り込んだ。

##### ◎ 11/30 カサブランカ市内観光

5:55 ドバイ着  
空港で2時間を過ごす。

7:50 ドバイ発カサブランカ行き  
所要時間 9:00

12:50 カサブランカ着

ホテルで休憩後, 希望者は市内観光に案内するとのこと。全員が希望し, ミナレット(尖塔)の高さが200m, 世界第一位の高さのモスク, ハッサン2世モスク等を見学。ショッピングをしてホテルに帰り, すぐ空港へ。



ハッサン2世モスクの前で  
ニジェルコース 馬庭哲弥氏提供

ここで, ニアメでニジェルコースと別れてからのブルキナへの入国手続き, 帰りの出国手続き, リコンファーム, 荷物の処理等の説明を受けたが, 充分には理解していなかった。

21:20 カサブランカ発 ニアメ経由でワガドゥグへ 所要時間 5:20

ニアメで添乗員とも別れ, 4人は期待と不安を抱えながらワガドゥグに向かった。

### ◎ 12/01 ブルキナ・ファソの首都

2:40 ワガドゥグ着

入国手続き中に JICA 調整員の安城氏が合図を下さり、安心した。隊員等の出迎えを受けて首都ワガドゥグ (Ougadougou) 市内に直行、Koulouba ホテルで午後までゆっくり休養した。(このホテルでは後日、チェックアウト後に



ワガドゥグ市内<sup>2)</sup>



ホテル Koulouba の前で 星郁子氏提供



第1日目の夕食会

も部屋を利用させる等の便宜を計って頂いた。)

夕食は我々4名とそれぞれの家族の隊員、それに2名の同僚隊員を加え9名でレストランに向かい、賑やかな会食となった。

料理はアフリカ料理 (コートジボアール?) で、いろいろ珍しいものがあった。

ワガドゥグでまず驚いたことは交通事情である。信号の無い交差点を通る車はもの凄いスピードで走り抜ける。車優先で、歩行者は先ず右を見て車の途切れを見つけては道路の半分を渡り、道路の真ん中で残りを渡る機会を狙う。「レストランに行くのも命がけ」という感じである。

次に感じたことは、ブルキナの人たちの挨拶と愛嬌の良さである。市場に行っても顔見知りだと遠くからでも声を掛け、初めての私たちとも良く挨拶や握手をしてくれる。特に子供や赤ちゃんの手は柔らかく、印象に残っている。

タクシーは乗り合いで、先客のあるタクシーを止めて、方向が同じであればこれに乗せてもらう。5人乗りの車に、助手席に2人、後部座席に4人、運転手を含めて7人乗るのが事実上の定員である。ブルキナの人達は親切で、先客が気軽に前に移って助手席に2人で乗ってくれたりする。タクシーは、ほとんどが日本ならば整備不良で廃車になるような代物である。

フロントガラスが割れて、これで視界が確保できるのか疑問なものも走っている。日本の廃車をもう少し役立てられないものだろうかと思う。

### ◎ 12/02 希少動物飼育場とリゾート地

ワガドゥグから40 km 程離れたカディオゴ (Kadiogo) のウエドゥピラにある、Clark Lungren 氏の経営する Ferme de Démonstration de Wédabila では絶滅危惧種や希少動物を飼育し、種の保護や動物園への供給を行い、動物によっては食肉用としての出荷をしている。これをビジネスとして行い、観光事業や住民への職場提供事業として活動している。

ここではタテガミヤマアラシ、イボイノシシ、



イボイノシシ



クリップスプリンガー



大型の蛇（無毒）



トピ



タテガミヤマアラシ



Clark Lungren 氏

カモシカ、オリビ、スプリンガー、トピ、だちょう、アフリカオニネズミ、ヨシネズミ、バーバリージリス、大型の蛇（？）その他、いろいろな動物を見ることができる。

ここに載せた写真は筆者が撮影したもので、その動物名は文献<sup>4)</sup>等と比較したものである。

ブルキナは内陸なので海は無く、雨も少ないとのことであるが、バラージュ（沼、湖、ダム等）は所々にあり、ウエドゥピラにもあった。

ナグバングレ (Nagbangre) のブーゲンピリアはワガドゥグから 30 km 程のところにある大きな湖に面したりゾート地である。



飼育場で働く村人達



ナグバングレの休屋

ウエドゥピラを出てこのロッジに向かったが、タクシーの運転手も初めてのことで、夜になってやっと到着した。休屋で楽しい食事を取り、コテージで一泊した。

◎ 12/03 リゾートからワガドゥグへ帰る

翌朝バラージュには舟が浮かび、魚を釣っていた。あたり一面に、その名のごとくブーゲンビリアの花が咲き誇っていた。

午前中ワガドゥグに帰り、午後は自由時間とする。夕食は中華レストランへ。白いご飯が出るので、和食堂の妻も安心した。

◎ 12/04 ファダ・ングルマへ

午前中は自由。午後、バスで長女の任地ファダ・ングルマ (Fada N'Gourma) へ到着。夜は市職員や同僚隊員等を招き会食。民俗芸能も鑑賞した。



ブーゲンビリアの花盛り



ナグバングレの湖



市の職員達と



民俗芸能

◎ 12/05 サファリー見学

ファダ・ングルマから 100 km 程のところにあるワガロー (Ougarou) の Neerwaya サファリーは運良く 12 月に解禁したばかりであった。

ワガドゥグやファダ等の都市はヨーロッパとあまり変わらない風景であるが、郊外に出ると

これが住家かと思うような建物が並んでいる。生活レベルの差が大きいと感じられる。

サファリーの入場手続きをし、4 輪駆動の車に運転手とタクシーの運転手、ガイド 2 人がついて、長女と我々 3 人で出掛けた。車には猟銃が一丁備えてあった。

ガイドは時折「あっ、あそこ」と指差してくれるが、我々にはすぐには何も見えない。車を止めて詳しく説明してもらって、良く見るとなるほど遠くに何かいる。こうして各種のオリビ、ガゼル、インバラ更にイボイノシシ、ほろほろ鳥等を度々見ることができた。ガゼル等が我々の車の直前を横切って行くこともあった。

東アフリカと違って、象やライオンは余程運が良くないと見られないそうであるが、我々の場合はライオンの足跡は確認できた。また、車が突然大きく上下したので良く見ると、象の群れが通った跡で、道路がでこぼこになっていた。



郊外の民家<sup>2)</sup>



野火を放つ



ドアを外した 4 駆で出発



トムソンガゼル<sup>6)</sup>





オリビ



ほろほろ鳥にご満悦



インパラ<sup>6)</sup>



ほろほろ鳥の串焼き



ほろほろ鳥と運転手・ガイド



ライオンの足跡

象の糞も沢山あり、表面は乾いていたが、全体はまだ柔らかかった。

ガイドは時折車を止めて、枯れ草に野火を放った。見通しを良くするためらしい。特に消火はしなくても、燃える範囲は限られている模

様である。

お昼近くになったとき、ガイドが銃を持って降りた。野生のほろほろ鳥を獲ってくると言う。ほどなく2発の銃声が聞こえた。しばらくして、二人が9羽のほろほろ鳥をぶら下げて来た。早速枯れ枝を集めて火を付け、鳥の羽をむしる。こ

れを解体し、小枝にさして炭火にかざす。

こうして手際よくほろほろ鳥の串焼きを作り、持参したパンや飲み物等で昼食を取った。残ったほろほろ鳥は運転手やガイドが土産に持ち帰った。(途中で狩猟区が見えたので、このほろほろ鳥の件も許可済であろう。)

なお、ここではいろいろな動物を観察できたが、写真に収めるのは困難であった。そのため参考までに文献<sup>6)</sup>から一部借用した。

帰りのコースでは鰐のいる沼に立ち寄る予定であったが、時間の関係で省略した。なお、行きの途中で放った野火は、帰りにはほとんど消えていた。

### ◎ 12/06 市役所等の訪問

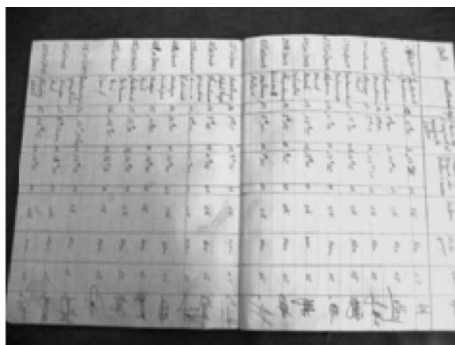
JICAの「世界の笑顔のために」というプロジェクトを通じて、八戸市バスケットボール協会に呼び掛けられたところ、八戸高校・八戸北高校・八戸南高校・八戸工業高校・八戸水産高校から中古のバスケットボール、リングネット、空気ポンプ等がファダの青年の家に寄贈された<sup>7)</sup>。

その利用状況を確認するため青年の家を訪問した。ここではボールで楽しそうに遊んでいる子供たちに会い、また大切に使用するための利用簿を見せて頂いた。

次に市役所を訪ね、市長第一代理や市長秘書その他の方々にお会いして、先日の会食への参加のお礼を述べた。市当局と隊員との親密な関係を実感し、安心した。



バスケットボールで遊ぶ子供達



バスケットボール利用簿

途中、市場で食材を買いながら長女の住居に案内してもらい、大家さんにも挨拶をした。

住居は6畳程度の部屋が2室で、1室は居間兼台所。水道は無く、汲み置きの水を使用している。もう1室は寝室兼勉強(?)部屋で、蚊帳が釣ってあった。マラリア予防のため蚊帳は必需品だそうである。また蚊よけのスプレーも手放せない。

長女の住居は極めて質素なものであったが本人は満足しているらしい。他の隊員はもう少し良いとのことであった。住居にはガードマンが配置されており、JICAの配慮が良くなされていることが感じられた。

大家さんの子供達に土産を持参したが、ちょうど留守だったので紙風船や、糸を引いて回す独楽の使い方をガードマンに教え、子供達に伝えて貰う事にした。

お昼に長女の作ったスンバラとオクラのご飯は正に納豆ご飯そっくりで、野菜と卵のスープとともに日本での食事を思い出させた。

(スンバラとその調理法に関しては江渡やよい「ブルキナファソ現地レポート」<sup>7)</sup> またはGoogle → yayoi eto → 現地レポート参照)

午後、バスでワガドゥグへ帰り、その後自由時間とした。

ブルキナの人是一般に写真を撮られるのを嫌がり、前もって承諾を得ないとトラブルになり兼ねない。街の様子など撮影するのは困難であ



市場の売り子達

◎ 12/07 ブルキナ最終日

午前自由行動。午後 JICA 事務所訪問。調整員や職員の熱心な仕事振りに感動した。現地発行の会報へ、感想文の寄稿を依頼されていたので、その原稿(長女がフランス語に翻訳)を提出。ホテルに戻り、土産店で民芸品等を購入。

夜、JICA の所長堀内氏宅に招かれる。メンバーはブルキナコースの 4 名とそれぞれの家族の隊員 3 名。所長さんの言によれば「日本料理もどき」を頂いた。ブルキナ人の作ったものであったが、美味しく、懐かしかった。その後、深夜空港へ向かった。



スンバラ売り<sup>7)</sup>



民芸品 象の指人形とでんでん太鼓(?)



大家さんの赤ちゃん



所長さんのお宅で

る。場合によっては料金を請求されることもあるらしい。

◎ 12/08 ガドゥグからドバイへ

ワガドゥグで出国手続きをし、荷物（防寒具入りのリュックサック）を「大阪まで」と依頼する。しかし、私の示した搭乗券はカサブランカまでのもので、これでは大阪までは運べないと言われる。残りの搭乗券はニアメで乗る添乗員が持っているものと思い込んでいたので話が付かず、止むを得ず機内に持ち込むことにした。

その後判ったことであるが、実は搭乗券に関する私の理解不足から生じたことであった。

11/30 カサブランカで添乗員から帰りの搭乗券一式を受け取っていた。その内の一枚はカードになっており、それはワガドゥグからカサブランカまでの搭乗券であった。

カサブランカ→ドバイ→関西空港の分はA4一枚の用紙で、これに詳細に印刷された電子チケットであった。これを搭乗券とは思わず、領収書や明細書の類と勘違いし、その裏に添乗員の説明をメモしていたのであった。

これを正しく理解していなかったため、カサブランカやドバイの乗り継ぎの際リュックを背負って歩くことになり、妻は不満を示していた。

3:30 ワガドゥグ発 カサブランカ行き

所要時間 3:30

カサブランカでは乗り継ぎまで7時間ほど時間があつたが、空港が大改造されており、新築部分と旧施設との連携が不十分で、売店も自動販売機もない場所でぶらぶら過ごす以外できなかった。また、電子チケットの処理が手間取り、出発ぎりぎりまで搭乗手続きができなかった。

14:15 カサブランカ発 ドバイ行き

所要時間 7:15

◎ 12/09 ドバイから関西空港へ

1:30 ドバイ着

2:50 ドバイ発 関西空港へ

所要時間 8:50

16:40 関西空港着

関西空港で最後のハプニング。私と妻はリュックを機内持ち込みにしたので影響はなかったが、ニアメやワガドゥグで大阪まで預け

た荷物がターンテーブルから全く出て来なかった。出国の際に中部国際空港から出発したため、そちらに行ったらしいということであった。そのため、他のメンバーは自宅に送ってもらうための手続きをすることになり、我々二人はここで別れを告げ、関西空港内のホテルに向かった。

◎ 12/10 関西空港から八戸へ

ホテルを朝出発し、JRを乗り継ぎ、関西空港、新大阪、東京を経由して八戸に帰った。

もし防寒具の入ったリュックをワガドゥグで預けておいて、それが関西空港に届かない事態になれば、防寒具なしで冬の八戸に帰らなければならぬところだった。怪我の功名で無事八戸に帰ることができたのであった。

## 5 隊員の活動状況

長女は村落開発普及員で、主な任務は衛生思想の普及である。そのため市の担当部局と連携を取りながら、ファグ市や周辺地域の飲食店を中心に、いろいろなコンテストやイベントをプロモートしているとのことであった。また原爆展や中古バスケットボールの提供<sup>7)</sup>、日本文化を紹介するイベントも行っている。

その活動状況を直接視察することはできなかったが、市の職員や住民との交流状況を垣間見ることができて、充分任務を果たしているものと判断された。

それにしても市当局やタクシーの運転手達との難しい交渉が不可欠であろうが、駒ヶ根研修所の3ヶ月で習得したフランス語を頼りに、良く乗り越えてきたものと感心している。

## 6 結 び

今回の旅を通して、ブルキナの女性のファッション性と、赤ちゃんを帯紐一つで腰に括り付け、バイクで車の渦の中を走り抜ける逞しいエネルギーを強く感じた。また、文化的にもいろいろな試みを行っていることが知られた。例え

ばフェスパコ映画祭、国際芸見本市（SIAO）はそれぞれ2年に一度首都ワガドゥグで開催されるアフリカ最大級のイベント<sup>3)</sup>である。

また、ウエドゥピラの実験的動物飼育場は希少動物の保護をしながらビジネスとしても成功している。ビジネス学科に籍を置く者として、強い興味を感じたので、その概要を付記したい。

そのホームページ<sup>8)</sup>はフランス語であるが、筆者の抄訳を附1に示した。

なお、時差によって日付が変化するので、日本時間に合わせた日程表を附2に示した。

## 文 献

- 1) <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/>

[burkina/index.html](http://www.burkina/index.html)

- 2) [http://www.jbfa.org/jbfa\\_a/guidance.htm](http://www.jbfa.org/jbfa_a/guidance.htm)
- 3) [http://www.jbfa.org/jbfa\\_a/embassy.htm](http://www.jbfa.org/jbfa_a/embassy.htm)
- 4) <http://ryokojoho.net/World/Burkina+Faso/map>
- 5) <http://www.sekaichizu.jp/atlas/africa/country/burkinafaso.html>
- 6) <http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/1920/>
- 7) [http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/volunteer/taiken/genchi/y\\_eto/index.html](http://www.jica.go.jp/tohoku/enterprise/volunteer/taiken/genchi/y_eto/index.html)
- 8) <http://www.bf.refer.org/faune/chapitre6.html>

## 附 1

### Ferme de Démonstration de Wédabila （ウエドゥピラ実験飼育場）

#### 飼育場の目的

ウエドゥピラの動物飼育場は自然資源の持続可能な利用法を推進することである。

そのために、その地方地方のいろいろな動物飼育法を収集し、採算性と観光事業と、特に種の保存に役立てることを目指す。

有効な技術の蓄積と採算性の実例を示すことによって、動物保護地域や特に狩猟の未統制地区周辺住民の生活向上を推進する。

また、この飼育場は種の保存と自然環境の保護に寄与することを目的としている。

#### 本事業の主な目標

独立採算性を保ちながら、生体系の保存を可能にするシステムの開発と実例の公開を行う場とする。

動物保護地域周辺の住民に対して、繁殖用牡動物への高価な投資をせずに動物を飼育する技

術を提供する。

希少動物の販売や輸出を通して動物の価格安定を計り、協力する村落に収入の道を与える。

生態系の保持に協力する村落やその住民に対して希少動物や絶滅危惧種の再導入の便を計る。

（以下概要を抄訳）

これらを通して、環境破壊を伴わない鳥獣肉の生産、飼育業者に対する訓練や技術の提供、適正な鳥獣肉の市場形成による密漁の防止、ブルキナの周辺地域の失業や食料難等の貧困の救済、その他に貢献することが期待される。

#### 現在試験的に飼育している動物の例

アラゲジリス、ヤマアラシ、イボイノシシ、コモンダイカー、ベイダイカー、オリビ、ブッシュバック、コークハーテビースト、ローンアンテロープ、ウォーターバック、ハジロカイツブリ、アフリカオニネズミ、ヨシネズミ、その他

附2

ブルキナ・ファソ 旅行日程

日本時間	現地時間	事 項	(所要時間)
11/29 22:45		中部国際空港発 ドバイ行き	(12:10)
11/30 10:55 12:50 21:50	11/30 5:55 7:50 12:50	ドバイ着 ドバイ発 カサブランカ行き カサブランカ着 市内観光	(9:00)
12/01 6:50	21:20	カサブランカ発ワガドゥグへ	(5:20)
11:40 (12/02 朝)	12/01 2:40 夜	ワガドゥグ着 安城氏, 隊員等出迎え 会食 (4人+家族隊員+2) アフリカ料理	
12/02 夕~朝	12/02 朝~夜	野生動物飼育場 リゾート地	
12/03 夕~朝	12/03 朝~夜	リゾートからワガドゥグへ 午後自由 中華店	
12/04 夕~朝	12/04 朝~夜	バスでファダ・ングルマへ 夜会食 市職員等	
12/05 夕~朝	12/05 朝~夜	朝5時 サファリーへ 昼ほろほろ鳥	
12/06 夕~朝	12/06 朝~昼 午後	バスケットボール 市役所 大家さん スンバラ バスでワガドゥグへ 夕方自由	
12/07 夕~朝	12/07 朝~夜	事務所訪問 土産 所長宅 空港へ	
12/08 12:30 16:00 23:15	12/08 3:30 7:00 14:15	ワガドゥグ発 カサブランカへ カサブランカ着 空港で待機 カサブランカ発 ドバイへ	(3:30)  (7:15)
12/09 6:30 7:50 16:40	12/09 1:30 2:50	ドバイ着 ドバイ発 関西空港へ 関西空港着 日航ホテルへ 松屋で牛丼	(8:50)
12/10 朝~夜		大阪 東京 八戸 スーパーで買い物	

注 日本とドバイ (アラブ首長国連邦) の時差=-5 時間  
 日本とカサブランカ (モロッコ) の時差=-9 時間  
 日本とワガドゥグ (ブルキナファソ) の時差=-9 時間